

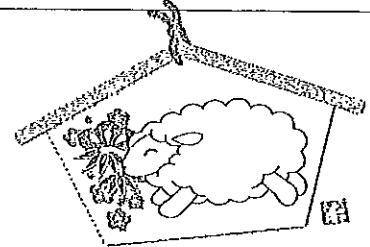
西部地域包括支援センター 愛全園

センターだより

2015年1月号
平成27年1月1日

発行 昭島市西部
地域包括支援センター愛全園
昭島市田中町2-25-3
☎ 513-7651

ご挨拶



謹啓

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別なご高配を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

2015年には全国の高齢夫婦のみの世帯は約1,222万世帯に増加し、そのうち一人暮らし世帯は約601万世帯(約49%)に達します。また、認知症高齢者については345万人になると推計されています。また、今後急速に高齢化が進むのは、首都圏をはじめとする都市部であるといわれており、「住まい」の問題を含め、高齢化問題は従来と様相が異なってくると思われまます。

このような状況において、今後は益々『予防重視型システムへの転換』、『地域支援事業への期待』が高まります。

高齢化の進展と介護給付費の高騰などにより、介護予防事業は介護保険制度を堅持していく上で必要不可欠です。介護予防の推進には、地域包括ケアの拠点である地域包括支援センターが中心的な存在となることが求められております。

私共西部地域包括支援センターにおいても、本年も引き続き『地域包括ケアシステム』の構築を念頭に様々な課題に対して取り組んで参ります。また、母体である社会福祉法人同胞互助会の強みである医療、栄養、介護との連携を密にし、緊急ケース、困難ケースについて、迅速な対応を実施していきます。

また、昨年度、東京都社会福祉協議会の協力を得て実施致しました『震災時における法人内連携訓練』の内容も取り入れた防災計画についても地域の皆様と共に考えていけたらと思っております。今年はいよいよ一層、地域に開かれた法人を目指した取り組みを実践して参りたいと思っております。

本年も、より一層のご支援を賜りますよう、従業員一同心よりお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸、益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成27年1月

西部地域包括支援センター 愛全園
所長 丸山 和代



～地域包括ケアシステムとは～

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

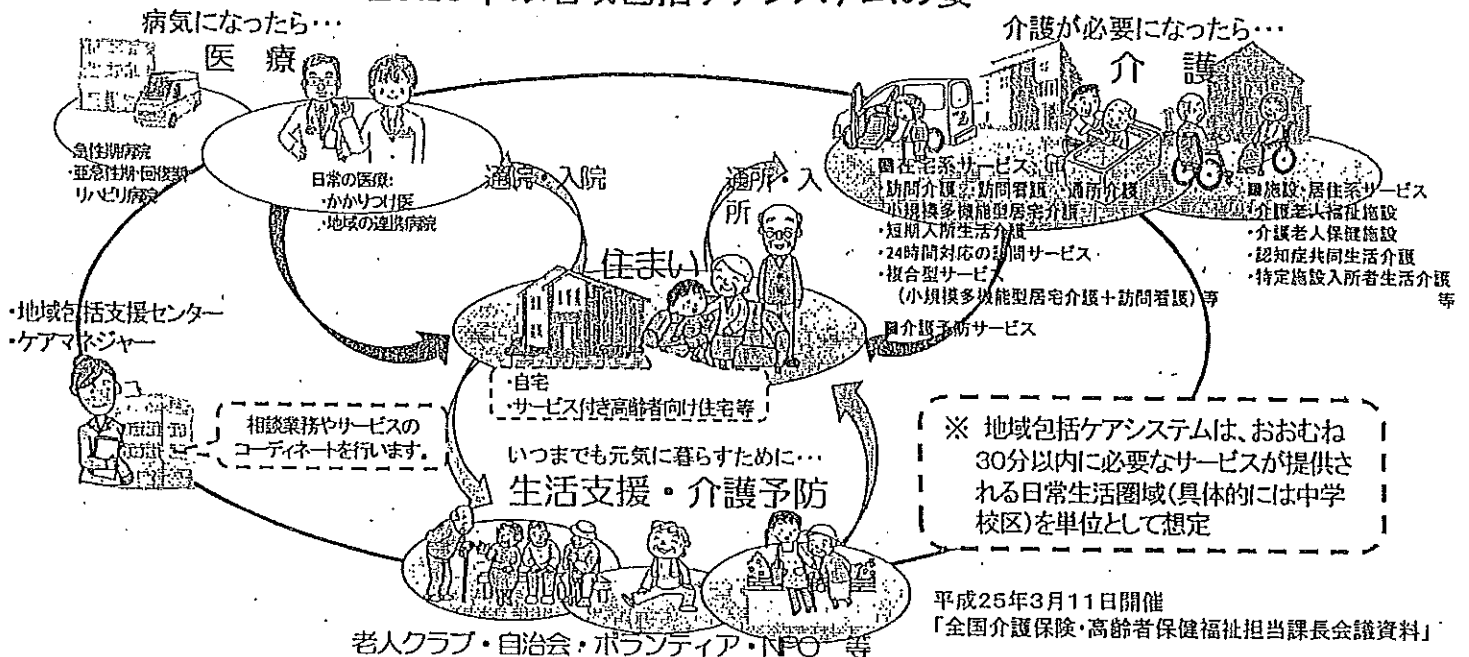
65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

このため、厚生労働省においては、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

- 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差を生じています。
地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や、都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

2025年の地域包括ケアシステムの姿



(厚生労働省ホームページより引用)